

**編集発行**

公益社団法人

四街道市シルバー人材センター

普及啓発委員会 広報編集グループ

四街道市和良比181-37

電話 043-497-5080

<http://www.sjc.ne.jp/yotsukaidou/>**自主・自立・共働・共助の理念と安全就業**

印旛沼から昇る朝日（田原 巖 会員撮影）

謹賀新年

皆様には、健やかに
新年を迎えたことと、
お喜び申し上げます。

さて、国内景気は緩
やかな回復基調を続け、
企業収益は過去最高と
いわれています。

しかし、このことに浮
かれている状況とはい
えません。

と申しますのは、「少子高齢化」を
どう克服するかという最重要課題に直面して
いるからです。これへの対応策として、国は
「一億総活躍社会」の実現を掲げました。

これは、シルバー人材センターにとっても、
関係の深い施策といえます。何となれば、今、
シルバー人材センターにとって重視しなければ
ならない事業が進められているからです。

ひとつは、労働力人口の減少が進行する中、人
手不足分野や現役世代を支えるサポート事業で
あり、もうひとつは、介護支援サービスや高齢者
安否確認、それに空き家・耕作放棄地管理等の地
域の雇用、経済維持発展に寄与する事業です。

ところで、当センターの業績ですが、ここ数年

安定した伸びで推移してきました。これは会員、
事務局一体となつての努力のたまものであると
共に、行政や地域の方々のご支援が大きな支えと
なっているものと考えております。ただ、この業
績も、現状の会員数では限界に近く、更なる飛躍
には、会員増強が急務といえます。

昨今、日本を代表する企業において、不祥事
が続出しています。組織の緩みなのかどうか。
企業が払う代償は計り知れません。私達も、こ
のことを他山の石とし、コンプライアンス（法
令順守）強化の重要性を肝に銘じて欲しいと思
います。

また、近年、会員の高齢化が急速に進んでい
ます。体力、判断力等の衰えは否めません。こ
のことを自覚して、就業に当たって頂きたいと思
います。

一段と寒さが加わります。体調管理に万全を期
して頂くようお願い申し上げます、新年の挨拶とさ
せて頂きます。

公益社団法人四街道市シルバー人材センター
会長 齊藤 勝璋



新年のご挨拶

四街道市長 佐渡 斉

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より市政に対して多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、急速なペースで少子高齢化が進む中、生産年齢人口も減少傾向にあり、高齢者や女性などの意欲と能力がこれまで以上に必要とされています。

会員の皆様におかれましては、自らの豊富な経験や技能、知識を活かした、更なる積極的な社会参加を通して、本市における地域社会の発展にご尽力されますことを大いに期待申し上げます。

本年も会員の皆様には、作業の安全やご自身の健康に留意され、ご活躍されますとともに、活力ある高齢社会を支える地域の中核的組織として、公益社団法人四街道市シルバー人材センターのますますのご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



佐渡市長



新年の抱負

初芝 順子 会員

(昭和21年生/大日小地区3班)

四街道に来て12年目、シルバー人材センターでは5年目に六度目の戌年を迎えて、今迄感じた事のない感慨を感じてやみません。中味は若い時とちっとも成長してない自分が居るのに、外見は当然七十二歳のば〜ばです。結婚して五十年、金婚式を迎え、夫も七十四歳、一昨年暮、脳梗塞を起こし、デイサービスやりハビリのお陰様で、ひとりで何とかようやく歩行出来る様になりつつも、手を携えなければならず、必ず二人三脚の外出も、丁度良いのかも知れません。次男一家と暮らして丸二年、リフォーム成った家で、小学三年生になる女の子と年長保育の男の子の孫に囲まれ、看護師目指して頑張る嫁と紆余曲折は当然。老いはもとより、時々病や怪我・・・とつき合いつつ・・・「仕合わせ」と呼ばなくては罰が当たりますね。シルバー劣等生の私ですが、見られない時こそ誠実に、恩返し的一端が出来れば・・・幸いです。

今年もよろしく願いいたします。



新しい年を迎えて

神永 治雄 会員

(昭和21年生/旭地区1班)

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にとりまして本年が増々のご多幸でありますことをお祈り申し上げます。

私は、昭和21年生まれの戌年です。平成18年から市営貸農園で家庭菜園を始めました。家庭菜園は身体を動かす健康法のつもりでしたが、当初は上手いかず不安な時期もありましたが、今では大きな楽しみになっています。去年は初めて大玉西瓜に挑戦しました。空中西瓜と地這西瓜で試してみました。4個採れ、全て成功でした。採り頃を間違えると西瓜と言えない代物になるそうです。時期になり恐る恐る採り食べてみました。なんと甘いことかと夫婦揃って大喜びでした。



(空中栽培中)

家庭菜園は、頭と体の老化を予防でき、日々成長する野菜たちを見ることで心が癒されます。収穫の喜びも味わえるところが大きな魅力です。



瞼の裏にまず浮かぶのは 村祭りではしゃいだ光景

～ 生まれ育った和良比から栗山へ嫁入り ～

草取りのご指名就業などで、毎日多忙な斉藤イクさん（83歳）。ようやく話を聞いた日、目を閉じたままポツリ、こう切り出した。

「昔のことで今もすぐ思い浮かぶのは、はだか祭りや秋の村祭りなどの、祭りではしゃいだ景色やな」

斉藤さんは、和良比（当時、旭村和良比）で生まれ育った。はだか祭りで有名な皇産霊神社にほど近い農家の実家である。四和小（当時、旭小分校）に6年間通い、小4の時、昭和天皇の玉音放送を聞いたという。

今も記憶が鮮やかな小学生時代から、二十歳前後の娘時代を通じて、毎年の村祭りの頃は、最も心躍る季節だった。

「四街道には陸軍の砲兵学校や飛行学校などができて軍都の一面もあった。でも幼かった私にそんな記憶はほとんどない」

幸いにも、厳しい軍靴の音は、幼い娘心にまでは忍び込まなかったようだ。

「村祭り」が斉藤さんの人生にもたらした大きな幸福が、もう一つある。斉藤さんはその後、昭和32年に、栗山に住む任弘さん（7年前他界）と結婚、和良比から栗山に嫁入りした。その任弘さんと出会ったのが、和良比の村祭りだった。祭りの夜の任弘さんの熱心な口説きに、さすがのイクさんも落とされた。当時では、まだまだ珍しい恋愛結婚だったのだ。

「相手がしつこくてな」



斉藤 イク 会員

イクさんは、ふと可愛らしく頬を赤らめてほほ笑んだ。インタビューにつき添った長男の幸一さんが、初めて聞いた父母の馴れ初めに目を丸くして、母を優しく見つめた。

「さあ、明日も草取りの仕事だて」

イクさんは、愛車のアシスト自転車をなでながら、元気な声を出した。

（インタビュアー 野村編集委員）





私の趣味

きめこみに挑戦

千葉 つる子 会員

(昭和21年生/南小・八木原小地区5班)



千葉さんの作品

市民文化祭の体験コーナーで

今年の干支『戌』を

きめこみで作りました。

何事にも

チャレンジ・・・

「木目込み(きめこみ)」という言葉は、製造上の技法を指します。木目込み人形とは、木や桐塑(「とうそ」と読み、桐の粉末に正麩糊(しょうぶのり)を混ぜて作った強度の強い粘土の一種)で作った胴体を彫り、溝を入れて、衣装の端を木目込んで製作した人形のことで、正式には江戸木目込み人形と言うそうです。つまり簡単に言うと、木目込むとは、木や桐塑でできたお人形の胴体に衣装の端を差し込むことで人形を製作する技法です。木目込み技法の発祥は江戸時代の中期頃と言われており、元々は京都の上賀茂神社の雑掌(「ざっしょう」と読み、事務や雑務等を行っていた方)が、木に布を木目込んで作った人形が始まりと言われ、それが、江戸に伝わり江戸木目込み人形と呼ばれ、現代まで伝わる伝統工芸品となったそうです。

参考：<http://blog.kobohinahina.com/> 「お人形と日々のこと」 工房 ひな雛

事務局の

New Face です



平成29年10月から働いています。

小井 幸 (こい みゆき) です。

事務局で働くようになり、会員の皆様の活発さに驚かされています。私も会員の皆様を見習い、元気に頑張っていきたいと思えます。

席は、井原部長の隣に座っています。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

§ 編集後記 §

現在の四街道市は、人口約93,000人の環境に恵まれた成熟した街に発展しましたが、かつての四街道がどうだったのか? 県外出身の編集者としては興味津々です。今回から連載で、四街道の思い出を会員の生の声でお送りします。会員の皆様、四街道の再発見と懐かしい故郷の日々を想い、明日に向かって頑張りましょう。

今年が、いい年でありますように!

会 員 数

男 性 430名

女 性 142名

合 計 572名



平成29年11月末日現在

最高登録会員数 平成24年1月末 672名